

平成28年4月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年5月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,259億円余
2. 前年同月比	-1.5% (2か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.0%(89.5%) : 非店頭2.9%(10.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	882,870㎡ (前年同月比:3.1%)
6. 総従業員数	19,105人 (前年同月比:-0.6%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 3.9%、10-12月 3.0%、11-1月 1.0%、 12-2月 1.7%、1-3月 0.5%、2-4月 -0.1%

[参考] 平成27年4月の売上高増減率は17.8%

【特徴】

- (1) 4月は気温が高めに推移し、土曜日が一日増の好条件下、中旬に発生した熊本地震による心理不安の影響を一時的に受けながらも、入店客数は0.8%増と前年を確保したが、総額では1.5%減と2か月連続のマイナスに終わった。
- (2) 商品別では、雑貨が13か月連続、食料品も8か月連続プラスと増勢を保ったものの、全国同様に衣料品や身のまわり品、家庭用品のマイナスをカバーするまでには至らず。
- (3) 細分類では、化粧品が17.9%増の13か月連続プラス。GWの帰省土産に人気が集まった菓子も1.9%増の8か月連続プラスを記録したほか、各社が集客に力を入れた地方物産催事が好評で、菓子(+1.9%)、惣菜(+0.9%)、その他食料品(+4.7%)が好調。
- (4) 個別商材では、紳士のビジネスアイテム(スーツ、シャツ、ネクタイ)が好調。一方、婦人では女性活躍推進法施行にあわせ強化したキャリアファッションで、シャツ、ブラウスと組み合わせ合わせたパンツスタイルに動きが見られる。また、各社とも日本の魅力を再発信するため、日本の技術や素材を活かした'Made in Japan'商品を積極的に展開している。
- (5) 5月は経済環境を背景とする消費マインドの低下が継続していることや、購買スタイル(一般物品→消耗品)の変化によるインバウンド消費の落ち着きを要因に、16日現在約4%減で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した:5店、②変化なし:8店、③減少した:5店
- (3) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数10店舗)
 - ①増加した:0店、②変化なし:4店、③減少した:6店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年04月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	125,913,458	100.0	-1.5
紳士服・洋品	11,003,100	8.7	-2.9
婦人服・洋品	23,978,705	19.0	-5.9
子供服・洋品	2,894,660	2.3	3.9
その他衣料品	2,267,037	1.8	4.7
衣 料 品	40,143,502	31.9	-3.9
身のまわり品	18,925,027	15.0	-5.4
化粧品	10,963,060	8.7	17.9
美術・宝飾・貴金属	8,409,459	6.7	-5.0
その他雑貨	5,448,070	4.3	-6.5
雑 貨	24,820,589	19.7	3.5
家 具	1,553,147	1.2	-7.7
家 電	638,780	0.5	-16.7
その他家庭用品	5,189,695	4.1	3.2
家 庭 用 品	7,381,622	5.9	-1.3
生 鮮 食 品	4,267,988	3.4	-2.1
菓 子	7,026,336	5.6	1.9
惣 菜	6,186,728	4.9	0.9
その他食料品	8,352,875	6.6	4.7
食 料 品	25,833,927	20.5	1.9
食 堂 喫 茶	3,005,268	2.4	-1.5
サ ー ビ ス	2,557,527	2.0	-19.5
そ の 他	3,245,996	2.6	5.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,301,438 千円	-8.3
従 業 員 数	19,105 人	-0.6
店 舗 面 積	882,870 m ²	3.1

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が13か月連続、食料品が8か月連続のプラスとなった。また、衣料品が6か月連続、身のまわり品が3か月連続、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が13か月連続、菓子、その他食料品が8か月連続、その他家庭用品が5か月連続、惣菜が3か月連続、子供服・洋品、その他衣料品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.5	-	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-2.9	-0.3	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-5.9	-1.2	6か月連続マイナス
子供服・洋品	3.9	0.1	2か月ぶりプラス
その他衣料品	4.7	0.1	2か月ぶりプラス
衣料品	-3.9	-1.3	6か月連続マイナス
身のまわり品	-5.4	-0.8	3か月連続マイナス
化粧品	17.9	1.3	13か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-5.0	-0.3	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.5	-0.3	9か月連続マイナス*
雑貨	3.5	0.7	13か月連続プラス
家具	-7.7	-0.1	5か月ぶりマイナス
家電	-16.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	3.2	0.1	5か月連続プラス
家庭用品	-1.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.1	-0.1	2か月連続マイナス*
菓子	1.9	0.1	8か月連続プラス*
惣菜	0.9	0.0	3か月連続プラス*
その他食料品	4.7	0.3	8か月連続プラス*
食料品	1.9	0.4	8か月連続プラス
食堂喫茶	-1.5	0.0	4か月連続マイナス
サービス	-19.5	-0.5	10か月連続マイナス
その他	5.3	0.1	9か月連続プラス
商品券	-8.3	-0.2	14か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>